

山陽新聞夕刊

[一日一題]

【医療崩壊】

「医療崩壊」

岡山市病院事業管理者、岡山市立市民病院長 松本健五

「医療崩壊」という言葉を耳にされたことがありますか。新医師臨床研修制度導入、度重なる医療制度改革、医療費抑制と安全要求という相矛盾する2つの強い圧力などがその要因にあげられています。今、医療界も厳しいのです。医療に質と安全性の向上を求めるならば、それ相応の費用と余裕が必要でしょう。

安全要求については、日増しに強くなってきています。その上に、医療はサービス業とする考え方が広まっています。そしてそれを履き違えている人が増加しています。サービスという言葉はビジネス用語でその根底にあるのは市場原理主義です。「奉仕の精神と慈愛の心、良心的誠意」が根本にあるはずの医療にふさわしくない言葉ではないでしょうか。また、医療機関のランキング本、スーパードクター紹介など、マスコミは常にゴッドハンド医師、自称名医を探しだし褒めちぎります。出演した医師にかかればどんな病気も治るかのように印象づけます。そして、一部の物差しのみで病院間、医師間の差を明らかにし、患者が単一の病院、単一の病院の医師に集中することになることを助長しています。

医療崩壊の状況を救うには、一部の事象のみで判断することなく、医療の本質は何かを再確認し、善良な一般市民ともども医療の現状を共有することではないでしょうか。市民も安心して医療を享受できる、また今後を担う若い医師、医学生が働き甲斐がある安心して医療に取り組める環境をまず岡山から取り戻さなければなりません。「病院同士も競争から協調へ。相互扶助」が最近話題の岡山総合医療センター（仮称）の構想の底流にあります。あきらめてはいけません。流されてもいけない。